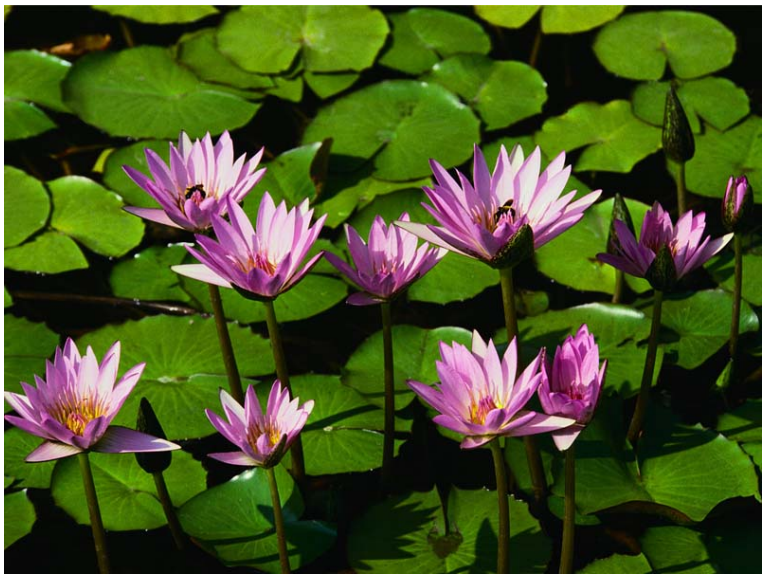
◇心理学シリーズ　＜その５＞

2005.03.15　タツノオトシゴ

お久しぶりのタツノオトシゴは、大学院２回生（多分？）の春を迎えています。
ゆっくりと春休みが取れる環境なら、カメラを片手に旅行にでも出かけるのでしょうが中々そうはさせじと、仕事に追い駆けられています。確定申告も済ませ、１期生の追い出しコンパも終了しましたので、やっと文章が書ける時間と環境と気力が調いました。
先月までは、後期レポート課題が 13 科目もあり泣きが入っていましたが、全てを書き終えた充実感は、学生時代の卒業設計を出し終わった時以来の感激！（懐かしそう…）
新学期は４月から始まりますが、今度は後輩にあたる３期生が入学（歓迎コンパあり）
人間には還暦という節目があるそうですが、３度目の学生生活ともなると、横に座っている連れ合いは、『この人に、何を言っても疲れるだけ(- -)」…』だそうです。今年の 11 月には銀婚式を迎える二人には、チョット刺激が不足しているようで、『ありきたりのプレゼントは要らないわよ！』と先手を打たれています。以上、近況報告でした。



兵庫県生まれの私は和歌山県が本籍で、先祖のお墓は高野山にあります。幼少の頃は奈良の法隆寺境内で、池の鯉や亀さんと遊んでおりました。御祖父さんが『ハスの花が咲く時は、だ～れもいない時に「ポン！」と小さな音を発てて咲くんやで！』と教えてくれたのです。それからは、少しずつ早起きをして「ハスの花は、もう咲いてしまったの？」と尋ねる毎日でした。毎日ハスの蕾を眺めながら、「今度はどの花が咲くのかしら？」と観察をするうちに、咲く花の順番が予測出来るようになったのです。『この花は、今日の朝咲いたんだよ！』と御祖父さんに教えてあげると、『そうかそうか、よう分かったな～ァ！』と、京菓子の入ったおひねりを呉れたものでした。縁側でハスの花や糸とんぼを観察

していると、他にも色々な事が見えてきます。尻尾を水面にﾁｮﾝﾁｮﾝと付けて、卵を産んでいる繋がった２匹のトンボや、水面を自在に走り回るアメンボウが創り出す波紋が、「なぜ均等間隔ではないのかしら？」とか、「どうしてアメンボウは水上を走ったり飛び跳ねたり出来るのかしら？」とか、毎日が不思議な出来事との出会いでした。雨の降る中で縁側から見る景色は格別で、『濡れずに、お外の景色が見れるのは楽しいね！』という、こましゃくれた子どもだったようです。そんな時には、縁側の下に潜り込み、アリ地獄（方言で『トトメ』と言っていた記憶がある）の巣を探して中の住人を誘い出したり、アリを捕まえては、その中に入れてみたり（恐ろしげな遊び）子どものする事には際限がありません。『トトメはどうして自分で作った巣に落ちてしまわないのか？』とか『くもの巣の蜘蛛は、何故自分の巣に引っかからず動けるか？』とか『ハスの葉の上に落ちた水は、何故丸くなるのか？』等々、児童の発達心理を実践していました。（子どもの観察力ってすごいと思いませんか？）

上の娘は昨年やっと就職でき、今度は下の娘の番です。最近、就職活動していますが
履歴書の中から面白いもの発見！（^-^）　チョットご紹介します。

何と卒論のテーマに「犯罪非行心理学」を専行、『家庭はいかにして非行を生み出すか？』という内容らしい！（最近私と口を訊かないのは、何か魂胆があるとは気付いていたが、そこまでやるか！身近で安くあげられると思ったら、大間違い！！）
そして趣味は、香水を集める事？色々の香りと心理の関連を調べてるらしい。オヤジの趣味を聞いたら、ビックリするから教えないでおこう！（音と香り：心理学との関連性）
いま時の娘は、＜父親に似ているなんて言われたくない症候群＞ですから……

最近、書店で面白い本を見つけました。買っても良かったのですが、手元に置くのはチョッと抵抗のある写真が多く、子どもの教育上でも良くないものですから…？？？？
タイトルは≪やくざの心理学≫という本で、どぎつい真っ赤な表紙に黒文字でタイトルが書かれていました。中身の半分以上は、初代山口組組長から５代目組長までの歴史や抗争について書かれており、その道に詳しい人なら『フムフム！』、『実際は、少し違うん

だが？』と蘊蓄を述べるには、もってこいの世界が展開しています。30 分位、立ち読みをしていましたが、≪〇〇〇の心理学≫として、組合せれば何でも出来そうです。
早い話が、漫才の「ボケとツッコミ」を兄貴と下っ端が役割分担して、効率良く稼ぐ手法が出ています。最近の「おれおれ詐欺」にも近いところがあります。成績の良い営業マン＆レディ達は、真面目に心理学を勉強しています。最初にビビらせて、タイミング良く誘い水や助け舟を出します。相手に「本当はもっと大変な目に会う所だったのを、命拾いした」と思わせれば、あとは自由自在！『兄貴！それ以上やったらアカン！又、務所へ行かされてしまう！』と言いながら『今日の所は、何とか始末しておくよって、今後き～つけや！』と止めに入ってくれる人は、仏様に見えるものです。実際以上に効果があり、次に出会った時に『ちょっと、困った事があって…』とか『〇〇さんを

紹介して』とかの「お安い御用で！」と言いやすい用事を持ってきます。段々エスカレートしてくるのが常道で、嫌な顔をすると、「あんたの事、信用してるさかい…」という風に、おだてに来ます。セールスでも同様、最初にドアを少しだけ開けさせたら勝ち！『フット･インザドア』の手法で、後はこじ開けるだけです。皆さんご用心、ご用心！
　相手が、慎重で手堅い人間ほど簡単に餌食になり易いそうです。何故なら賢い連中はリスクマネージメントで「次の手」、「その次の手」～「最悪のパターン」までを検討し事前学習してるからです。チョッと強く押すと、次々と手の内を明かしてしまいます。『私どもとしては、一応このあたりの事を考えているつもりで…』という交渉事では『それで？』と返事するだけ。答えに詰まって、あせ拭き拭き『それが受け入れられない場合は、このようなパターンも考えられるかと…』（うさおさん、経験ないですか？）それに対し『それで？…』と不満そうに睨む。（消え入るような声で）『では、やっぱり、

このような方法で行くしか無いのではと…』、間髪を入れず『はよ言わんかい！分かっとったらトットとやらんかい、このボケ！！』でヤクザヤさんの勝ち！

昨年の秋、例年の集中講座（心理学）で**手品**の話しをしました。ロープを使ってやる簡単な**奇術**です。一本のロープを二つに折り、真中をハサミで切ると、「あら不思議、切れたロープが元通りに！」というお馴染みの手品です。ここで、わざと「奇術」と「手品」という言葉を使っています。上記の正しい用語の使い方はどちらでしょう？
「種も仕掛けも有りません」と言葉で言うのは「手品」です。これは人間の心理を利用した「トリック」です。「だろう」や「違いない」の心理を逆手に取っています。では、奇術の場合は「……」の世界です。仕草では「種も仕掛けも有りません」という事を見せたり、誰かを試験台に使いますが、言葉で「種も仕掛けも有りません」と言えないからです。言ったとたんに≪偽証罪≫が成立！次に、タツノオトシゴの失敗談を一つ。デイサービスで、お年寄りにトランプを使った手品をしました。カードの数字を覚えてもらい、そのカードを当てると言う簡単な手品をしました。「ハイ！さっきのカードはこれではありませんでしたか？」そこで拍手がくると思ったら、客席がザワザワ…！
もう一度やり直しても、ザワザワ、ザワザワ！客席に近づき「何か、間違ってましたか？」

と訊いて見ると、「隣の人と意見が合わない」ことが原因でした。「あの数字やった！」
「いや、ワシの見た数字は別やった！」「どちらも違っとる、正しいのは〇〇じゃ！」
その後、タツノオトシゴはカードの手品は止めました（個人の尊厳を守るために）

寒い街角で、チラシやティッシュを配っている人を見かけます。皆さん、配った事ありますか？あれも中々大変なんですよ！変な場所で配ると、営業妨害や道路交通法などの規制に触れます（事前に届を出せば別ですが…）そこで、簡単な質問を三つ！
その１．お店（本屋さん）の前でチラシを配ります。入る時には手ぶらでも、出てくる時には荷物を持っている人もいます。あなたは①出てくる人、②入る人のどちらを主にチラシを配りますか？
その２．若い①男性と②女性の二人連れ、どちらの方にチラシを渡そうとしますか？

男性が、連れの女性の荷物を両手に持っている場合は、どうしますか？
　その３．何人かのグループ（女性）が通りかかりました。どんな人に狙いを定めて
チラシを配りますか？①先頭グループ、②中央グループ、③後ろのグループ

では、その１、基本的には出てくる人を対象にします。入ってくる人は、目的を持って
お店に来るので、余分な事は邪魔くさく感じているのです。出てくる人の、扉を開けて
手を離した瞬間がねらい目！＜手を離す＞という開放感とは逆に＜不安感＞の部分も
あり、何かを持つと落ち着きます。でも両手が塞がっている人は無理かも？？？
その２．当然、男性に渡します。でもその前に、ちょっと女性の方に渡すふりをすると
もっと効果的です。男性は女性の前では、「ええカッコしい」ですからね(^-^;)
荷物を持っている場合は全く逆に、男性に渡す仕草をして、女性の方へ向くと効果的。
場合によっては、引ったくるようにチラシを受け取りますが、その後ごみ箱へポイ！！
その３．この場合は非常に難しいケースです。私の場合は、真中のグループの中でも、
少し離れた感じの人をターゲットにします。チョッと優しく、さりげなく…です。
相手が「えっ！私に？」という感じにです。そして、後ろのグループの何人かにも！
色々な場面で人間の反応を観察する、これも援助技術を磨く実践の一つです。大学院で
は臨床心理の先生や教育心理系の先生もいるので楽しく学習しています。

　それでは、今回のオプション講座『日本にも深層心理の僧がいた！』
和歌山県は、昔＜紀州＞といわれていました。今、ＮＨＫ大河ドラマで『義経』を放送
していますが、丁度その時代背景の中、多くの名僧が生まれ活躍した時代です。ミカン
で有名な有田の金屋町に生まれた明慧もその一人です。法然、親鸞、道元、日蓮などが
お互いに影響し合い、日本の佛教の発展に大きく寄与しています。それまで天皇を中心
に公卿が政治を動かしていた時代から、武家中心への幕府に変化させたのが源頼朝です。
明慧についての推薦図書、白洲正子（著）「明恵上人」：㈱光邦Ａ－５版（2700 円）
ユングやフロイトよりも 650 年前、日本で『夢』を通して深層心理の世界に触れた僧
がいた。承安三年～貞永元年（1173－1232）法名は高弁（明恵というのは房号である）
文覚（もんがく）の弟子となり華厳宗を修している。同時代の名僧が新しい宗派を興し
たのとは対照的に、自分の立場を頑なに守っているようにも見え、幼い時に両親を亡く
していることにも関係しているのだろうか？彼が残した『夢』に関する記録は、同時代
の激動とは別に、独自の世界を構築しているらしい。

今回は、その資料の一部として自選の和歌集から一部を紹介してみます。

あはれしれとわれをすすむる夜はなれや松の嵐も虫のなくねも（玉葉 615）

【語釈】**◇あはれしれと**　秋の情趣を知れと。「心なき身にもあはれは知られけり」（西行）。**◇夜**（よ）**は**　夜。夜更け。

【補記】「明恵上人集」では「物あはれなるに、世の中あぢきなくおもひつづけて侍るふですさみに」と詞書された連作十首のうち。

山でらに秋のあかつき寝ざめして虫とともにぞなきあかしつる　（上人集）

【語釈】**◇なきあかしつる**　空が明るくなるまでずっと泣き続けていた。

雲をいでてわれにともなふ冬の月風や身にしむ雪やつめたき　（玉葉９９６）

【通釈】雲を出て、私について来る冬の月よ。風が身に浸みないか、雪が冷たくないか。

【語釈】**◇後夜のかねのおと**　未明から行なう後夜の勤行の時刻を知らせる鐘の音。

くまもなくすめる心のかかやけばわが光とや月おもふらむ　（上人集）

【通釈】隅々まで澄み切った心が、余すところなく輝いているので、自分の光だと月は思うだろうか。

【語釈】**◇すめるこころ、月のひかりにまぎるるここちすれば**　澄んだ心が、月の光と区別がつかないような気持がしたので。

九　めぐり春はむかしにかはりきて面影かすむふゆの夕ぐれ　（風雅 2039）

【通釈】文覚(もんがく)上人が亡くなって九年、生きておられた春の思い出は昔になってゆき、面影もかすむ今日の夕暮だことよ。

【語釈】**◇文覚上人**　明恵の師。高雄山神護寺の再興に奔走した。政争に関わって建仁三年(1203)対馬へ配流され、客死した。

昔みし道はしげりてあとたえぬ月の光をふみてこそいれ　(上人集)

【通釈】あの時の道は今雑草が茂って、痕跡もなくなってしまった。月の光を踏んで、入ってゆくのだ。

【語釈】**◇賀茂の山寺**　賀茂仏光山寺(現存せず)。明恵が栂尾から賀茂に移ったのは、建保六年(1218)八月と承久三年(1221)秋の二度。この歌は二度目の時の作であろう。

かきつくるあとに光かがやけばくらき道にも闇ははるらむ　(新勅撰 62)

【通釈】故人が書き付けた筆跡に、この光明真言が光り輝けば、冥土の闇路も明るく照ることでしょう。

【語釈】**◇光明真言**　一切の罪業を除く真言。

あかあかやあかあかあかやあかあかやあかあかあかやあかあかや月　(上人集)

【語釈】**◇あかあか**　月光の明るい様。

この歌は、一体何を感じているのでしょう？不思議な感じがしませんか？